



経済学部長再任のごあいさつ

小倉利丸

今年二月の教授会で、学部長として再任されました。四月から二年の任期で職務を継続することになりました。岸本副学部長、宮井評議員、垣田経済学部長、鈴木経営学部長、立石経営法学科長、いずれも再任、あるいは継続です。経済学部の執行部体制に大きな変化はありません。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

二〇〇四年、富山大学は、三大学院統合という全国でもまれにみる大きな組織再編を果たしました。キャンパスも離れ、学術研究や教育の文化も伝統も異なる三つの大学を、一つの大学として新たなアイデンティティを構築する作業は容易ではありません。

このことをこの間実感してきました。特に、教養教育や大学院教育については、全学的な取り組みが必要になっており、経済学部も、学部単位での教育と研究だけにとどまらず、他学部との協力関係が重要になっていきます。大変ありがたいことに、大学院に

ついては、多くの志望者に恵まれ、定員を増やすなど充実を図ることができました。留学生の院生が多いことから、学位論文の執筆に必要な日本語教育を新たに開始し、院生と教員が専門の研究と指導に集中できるように工夫し始めたところです。また、社会人の大学院での研究を支援するために、入試科目を見直し、専門の学科試験を廃止して論文審査を導入しました。実社会に出て様々な経験を積んだみなさんが、改めて勉強し直し研究に取り組む条件を整えようと考えております。

戦後日本は、高度成長と先進国化のなかで、人々の生存の保障としての経済という経済の根本をどこかで脇に追いやってきたのではないかと思っています。大きな犠牲と取り返しのない将来への負債を負うことで、やっとならぬことに気づいたのではないかと、思います。あらゆる学問分野で、この未曾有の出来事をふまえて学問そのものの問い直しが始まったと感じています。社会科学も例外ではありません。次世代を担う若者たちは、私たちのような世代の旧弊を打破して社会の再設計に挑戦する担い手として、学問の問い直しの先頭に立つてほしいと思います。ヨーロッパでも米国でも、中東でも中国や韓国でも、どこに国があっても若者たちは社会の様々な制度的矛盾に直面し苦闘しています。しかし、そうした苦闘があるからこそ未来の社会のあるべき姿を必死で模索する真摯な挑戦も芽生えてくるのだと思います。大学の使命もまた、既存の価値観や枠組みを打破する学問的な苦闘を厭うようであっては、とうてい苦闘の時代です。しかし、そうだからこそ可能性の時代でもあると考えたいと思います。(おぐら・としまる)

東日本大震災と福島原発事故は大きな教訓を私たちに残しています。

越嶺随想

続「クレジットカードの現状」

小河俊紀



●はじめに  
「二〇一二年二月一九日一七時三十分、私はタイムカプセルを開けた。」という大げさだが、実は、一九八一年六月一日発行の本誌第七号に寄稿した「クレジット・カードの現状」と題する草稿を、書齋のタンスからこの日偶然発見したのだ。

私は、クレジット・カードの仕事に携わって早四〇年になる。当初、予想さえしないことだったが、日本の業界黎明期から爆発的成長期、そして一種の成熟期の現在まで、様々な立場でその歴史に関わってきた。

寄稿当時は、入社十年目で、業界誕生二〇年目の節目だった。現時点では半世紀、人間而言えば、天命を知る「知命」を迎える。様々な節目に当たるこの時期に、この草稿を発見したのも、富山大学

との深いご縁ではないかと思う。寄稿当時三三歳だった私は、在籍するカード会社(JCB)での十年の実務経験をもとに、カードの過去・現状・未来について持論を展開した。本稿でも、前回と同じ趣旨で三一年ぶりに続編を書いてみようと思う。

●初稿の骨子

一九八〇年代は、高度経済成長に伴ってクレジット・カードが日本で爆発的に普及した時期だ。しかし、一九八一年当時は、嵐の前の静けさだった。たとえば、カード発行枚数において、現在は三億二千二百万枚(日本クレジット協会調査)であるが、当時は三千五百万枚と、今の十分の一規模でしかない。

業界トップのJCBでさえ、地方ではまだ無名であり、富山に帰省するたびに、親戚や友人に説明するのが大変だった。だから、本誌に寄稿を勧めていただいた故新田隆信学部長の先見の明に敬服している。骨子としては、

- (一)近い将来、自動販売機や電話料金までカード決済になる。決済できない分野はなくなる。
- (二)「使った分だけ後払い」の仕組みは、アメリカよりはるか昔元禄時代の「越中の置葉」に原型が見られる。日本で最初にカードを発行した青井忠治氏(丸井の創業者)が富山出身であるのも偶然ではないだろう。
- (三)不正使用の防止を図り、サービスと機能の拡充次第では、日銀券に替わりうるだろう。

●レビュ

その後の三〇年で、実際どうなったかを振り返ってみよう。(一)について、完全的中した。実際、一九八二年ころから、全国金融機関が競ってカード事業に参入し、爆発的な普及が始まった。決済分野も飛躍的に拡大し、電話代金どころか、今や医療費や公金、家賃さえカード払い可能になった。

(二)について、ここ数年、業法改正でカード会社の大半が収益悪化や事業収縮にあえいでいる。しかし、老舗丸井のエポスカードは高収益・高成長を続けています。やはり、富山の置き薬のDNAが継承されているのかも知れない。(ちなみに、縁あって、現在私は同社のアドバイザーをさせていただいている)

て、カード利用ポイント制度の開発や、全国で使えるギフトカードの発行開始など画期的なサービスが続々導入された。加えて、二〇世紀末にインターネットが登場すると、ネットでの通販とカード決済額が普通になり、とうとう売上・決済額ともに老舗百貨店を追い抜いてしまった。ただ、カード決済規模全体では、平成二一年度実績で四四兆円。凄いと云えば凄いな金額だが、同年の個人消費三〇四兆円に対する決済比率では、わずか一四・四％程度だ。決済率で、歴史の古い欧米はもちろん、歴史がわずかに十数年のお隣韓国の六〇％に比べると、日本はカード利用面では後進国だ。残念ながら、「日銀券に替わるだろう」という私の未来予想が、未だ遠い夢だ。様々な解釈がありえるが、それは今回省略する。

●新たな未来予測

超現金社会日本で、カードはいった現金に替わることができるのだろうか?本稿の結びを、私なりにまとめてみた。

- (一)スマートフォン、ネットとの連携
- (二)スマートフォンの進化し

二〇〇四年、ケータイ電話に日本独自の非接触通信技術Felicaを搭載したオサイフケータイが登場した時、本当に衝撃的だった。長い夢が現実化した。そして、今はケータイがスマートフォンに進化し

オレオレ詐欺の予兆電話が、卒業生の実家にかかってきました。

- ・予兆電話とは「携帯の番号を変えたから登録しておいてくれ」「風邪を引いて声が変わっている」というものです。3月6、7、9日に富山県内外で4件振込詐欺の予兆電話がありました。
- ・確認できた3件は、いずれも富山大学経済学部の卒業生の実家でした。
- ・卒業年度は、平成9年度(第46回)、10年度(第47回)、11年度(第49回)と複数年度にまたがっています。
- ・卒業生の氏名を名乗っていることから詐欺グループでは氏名と実家の電話番号が記載された名簿を持っているかと思われます。
- ・このような不審な電話に十分注意するとともに、関係各位にも注意を呼びかけてくださるようお願いいたします。また、不審な電話があった場合は、最寄りの警察署又は富山大学(担当:総務部総務グループ 電話:076-445-6005 FAX:076-445-6014)へご連絡、ご相談ください。



Felicia は N F C (国際規格) に標準化しつつある。近未来、コーラを自動販売機で買うのも、ネットでも買物をするのも、世界を旅するのも、スマホ一台で足りる時代になるだろう。

(一)企業間取引のカード決済  
前記のとおり、個人消費分野でカード決済はすべて網羅された。残された領域は企業間取引(B to B)しかない。なぜなら、元来、クレジットカード・カードは個人・法人を問わず売主の売掛金圧縮と買主の買掛金繰延という敵対関係を、矛盾なく両立させる優れた仕組みであるからだ。

現行、企業間取引の決済条件は力関係で決まっている。弱小企業ほど厳しく長い売掛に苦しむ。仕入れは逆に掛けが難しいのだ。人体で言えば、毛細血管の血流不足のようなものだ。もし、この領域にカード決済が実現すれば、「マナーの B to B to C 連鎖」が起り、零細企業が活性化し、個人消費も活性化し、日本全体が蘇るだろう。  
十年後に、再度本稿の続編を書いてみたいと思う。

■筆者略歴



小川 俊紀  
おがわ とし の り  
学部二〇回  
[Cart Seek] 代表

パーソナルファイナンス学会会員  
一九七二年経済学部卒  
同年日本クレジットビューロー(JCB)入社、カード基幹業務全般に従事。一九九〇年ヤマハに転じ、全国特約楽器店網の顧客系列化業務を担当。同社定年退職以降、決済代行企業等異業態各社のカード活用コンサルに携わるほか、「クレジットカードによる資金繰り円滑化特許」の実用化に取り組んでいる。

母校だより

教員の異動



新任  
二〇一二年十二月一日付  
岩本 学(いわもと・まなぶ) 講師  
・所属学科：経営法学科 民事法  
・担 当：民事訴訟科目  
・最終学歴：東北大学法学研究科博士課程後期



二〇一二年四月一日付  
久保彰宏(くぼ・あきひろ) 准教授  
・所属学科：経済学部経済学科  
・担 当：国際金融論  
・最終学歴：大阪市立大学大学院経済学研究科後期博士課程修了



前 職：大阪市立大学大学院  
経済学研究科特任助教  
・生 年：一九七一年  
・出身地：大阪府  
・ひとこと：民間と学問の世界を行ったり来たりしていましたので、職歴は数えられません。国際金融論を担当しますが、同時にアジアビジネスや新興市場の現状についても伝えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

山田潤司(やまだ・じゅんじ) 講師  
・所属学科：経済学部経済学科  
・担 当：金融論、マクロ経済学  
・最終学歴：東京大学大学院経済学研究科博士課程単位所得退学  
二〇一二年四月一日付  
・生 年：一九八二(昭和五七年)  
・出生地：広島県福山市  
・ひとこと：この原稿の執筆時点(四月初旬)ではまだ大学の授業は始まっておらず、五福キャンパスには新入生と思いき学生が諸手続きのためちらほらと来校しています。その初々しい姿を見て自分の大学入学の頃を思い出しました。  
私が学部に入学した二〇〇二年当時の日本は、バブル崩壊後の長

大学の行事

第一回富山大学展 開催中

期間：四月九日から五月二五日  
場所：中央図書館二階ロビー

今年には特に第一回として前身校の設立時からの歴史を中心に、八学部の設立時の新聞のコピーや卒業アルバムの写真などを展示している。経済学部でも、旧高岡高商開校式(昭和三年十月二十日)の新聞記事

引く不況からようやく脱出の糸口が見え始めた頃で、経済動向を巡るニュースが連日報道されています。自然と「なぜ日本は不況に陥ったのか」という疑問を抱くようになり、経済学部の門戸を叩きました。以来今日に至るまでデフレ・少子高齢化・財政赤字等、マクロ日本経済の課題を実証的に分析しています。  
私の取り組んできた研究課題は今後も日本経済が直面し続ける問題であり、これから社会に出ていく経済学部の学生にはしっかりと学んでいくと欲しいと強く思っています。刺激的な講義ができるよう努めてまいります。

転出  
李 瑞雪・准教授  
法政大学経営学部教授へ



大学展

学会等の開催

シンポジウム  
中国国境地帯：共生への期待と不安

富山大学の、東アジア「共生」学創生の学際的融合研究の一環として三月一六日(金)経済学部大会議室で開催された。堀江典生教授が中心となり富山大学極東地域研究センター、一橋大学経済研究所ロシア研究センターの共催、東北大学東北アジア研究センター、島根県立大学北東アジア研究センター、北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアの世界の後援を得て行われた。第一セッションで六名、第二セッションで六名の発表・討論等があった。  
シンポジウムの半ばに、遠藤学長からも大学のプロジェクトであり成果を期待していると挨拶があった。

学生の活動

経済学部ゼミナール協議会  
越嶺会長賞の表彰式

三月十九日(月)ゼミナール協議会の優秀論文に対し越嶺会長賞として表彰する式が、寺林敏・副会長が会長代理として出席して経済学部大会議室で開かれた。

賞状と副賞を授与された後、学生から論文の狙いと苦労した点について述べられた。  
また、寺林副会長は、質問に答えて富山県教育長として、勤勉ながら発言・発信が下手と言われる県民気質や公立が多い富山県教育の特色について語り、どの職業についても学んだことを自分の頭で考えて進んでほしいと述べ、受賞を祝福した。



遠藤学長

大津教授

越嶺会長賞を受賞して

この度は、このような賞をいただくことができました。大変光栄に思います。私たちがこのような結果を残すことができたのは、ひとえに越嶺会をはじめ様々な方々のご支援を賜ることができたからと実感しております。

私たちが「コンパクトシティ」に関心を持ったのは、地方財政の逼迫を耳にするようになったことです。富山市でも「串とお団子」というコンパクトシティの理念に基づいた政策を行っていたこともあって、こうした観点から地方財政逼迫を緩和できないかと考えました。

私たちの研究の独自の視点は、「利便性指標」を定義したところにあります。この利便性指標は特定の施設の周辺に存在する住宅数の割合を表しており、消費者は施設の利用がしやすいかどうか、また自治体にとっての効率の良い施設の配置が行われているかを表しています。



越嶺会長賞受賞